

11月6～7日、横浜新都市ビル9F「ミーティングルーム」にて、中部楽器技術専門学校主催の卒業生研修会を実施いたしました。

今回は、本校卒業生を対象とし、ピッコロ調整技術研修会とピアノ調律師国家資格についての最新的话题をテーマに実施いたしました。

今回の報告書を通して、日々の業務にお役立ていただけましたら幸いです。

—— 中部楽器技術専門学校 ——

「ピッコロ調整技術研修会」

講師役に株式会社フルトマスターズ代表取締役野島洋一氏を招き行なわれました。

研修会は、以下3点を中心に進められました。

1.基本的なやり方 2.基本的な考え方(自分の仕事の進め方) 3.意識の持ち方。

経験からくる鋭い指摘となぜそうなのかという後の理論付けにより、とても説得力のある研修会でありました。特に、無駄の排除・意識改革という単語は、何回も繰り返されておりました。

作業についての情報を共有させることにより、現場の問題などの早期発見・効率化・改善に役立つ仕組みづくりを提唱し、作業の漠然とした部分を客観的に判断できる指標で把握するための可視化を重視。現在の作業は、時間当たりどのくらいの売上になるのかを参加者に意識させておりました。

参加者は一様に、「本質を突かれて胸にグサツとききました。」と述べており、特に仕事に対する考え方や心構えを学んだようでありました。



野島氏(中央)を囲み、熱心に話を聞き入る参加者たち。

「ピアノ調律職種技能検定について」

中部楽器技術専門学校相談役理事長でもあり、社団法人日本ピアノ調律師協会本部理事でもある岩田光義より、「ピアノ調律職種技能検定」について、最新の情報を解説させていただきました。

具体的には、ピアノ調律の技能検定制度とはどのようなものなのかを、技能検定の概要や実施機関、等級区分、受験資格、合格者についての話を交えて解説いたしました。

特に、受験資格の内容の確認や実技試験に要求されているものや財団法人日本ピアノ調律師協会

会員への入会試験との違いなどを強調しておりました。

顧客の信頼と安心を得る意味で、仕事内容の開示が求められるようになる時代、ピアノ調律師の技術認定制度が導入され、調律師全体の技術の標準化を図ることができるようになり、音楽社会により一層の貢献ができるようになると考えられます。



最新情報の提供の場や情報交換の場としても研修会が行なわれました。

「交流懇親会」

卒業研修会終了後には、場所を移動して「交流懇親会」を開催いたしました。

今回も、職種、経験年数、地域などの囲いを越えた、通常とは一味違う『貴重な情報を得られる場』として参加者から喜びの声をいただきました。

なかには、研修会の時間だけでは飽き足らず、貪欲に経験・知識を学ぼうと、時間が経つのも忘れてしまうぐらい熱心な議論が行われておりました。

【就職支援係より】

本校では、楽器業界に有益な人材を育成するため、さまざまなオーナー様のご意見を伺っております。知識と技術の研鑽はもちろんのこと、常識力や社会性にも力を注いでおります。

現在、夏休みや春休みなどの長期休暇の折に、学生の訪問や見学、研修などをお受けいただいたり、卒業前に内定企業様での実務研修を実施していただいております。

そのような中、学生あるいは本校に対してのご意見がおりになる場合は、遠慮なくご連絡頂ければ幸いに存じます。より良い人材育成のため、精進努力して参ります。